名古屋大学大学院　博士課程教育リーディングプログラム（複合領域型：多文化共生社会）

「ウェルビーイングinアジア」
実現のための女性リーダー育成プログラム

W（Women×Well-being）の チカラが明日を変える

生きるエネルギーが充満するアジア。
貧困、多様な健康問題、ジェンダー格差など様々な課題を抱えながらも目覚ましい発展を遂げる多文化共生社会。
その多様性こそ、イノベーションの原動力。
アジアの成長に学び、解決すべき課題を科学の視点からアプローチ。
民族、国籍、宗教、研究領域を超えた女性たちが手を結び、目指すは、ウェルビーイング。
W（Women×Well-being）のチカラが明日を変える

理念と目的

女性にフォーカスした アジア展開

持続可能な社会の発展に向け、多様な取り組みが求められる今、日本社会を活気づける鍵となるのは〈女性〉です。女性たちがその能力や個性を十分発揮して、活躍の場を広げることが期待されています。

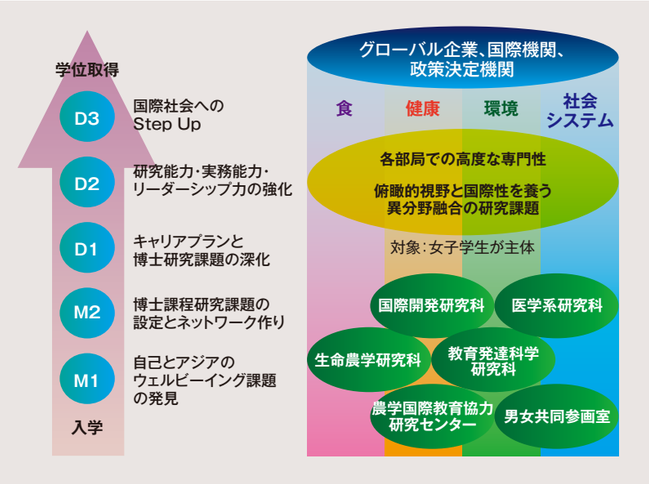
一方、様々な発展段階にあるアジア諸国は多文化共生社会。そこには貧困、多様な健康問題、ジェンダー格差など、解決すべき課題が山積しています。特に、女性が伝統的に貢献してきた「食・健康・環境」分野における共通の課題を解決するためには、民族や国籍、宗教を超え、アジアの女性同士によるネットワークの構築とパートナーシップの確立・深化が必要です。

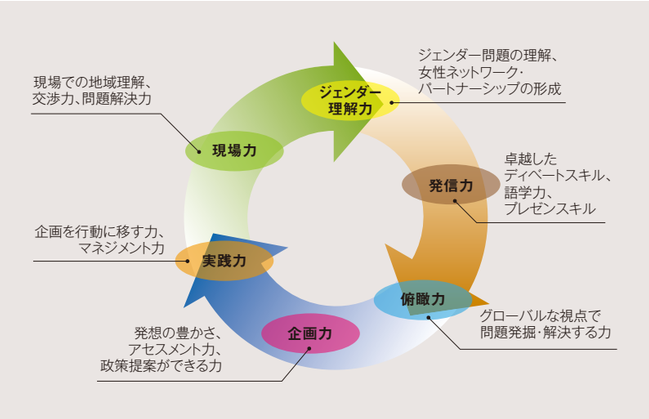
本プログラムでは、こうした課題に深く関わる「食・健康・環境・社会システムと教育」をキーワードに多彩なカリキュラムを展開し、ウェルビーイング実現のために、確固たる専門性と俯瞰力、異文化相互理解に立脚した国際性と使命感を兼ね備えたグローバルに活躍できる女性リーダーの育成を目指します。

プログラムの内容

専門分野を超えた 5年一貫のプログラム

国際開発学、教育発達科学、生命農学、医学（医学・保健学）の4研究科5領域、および農学国際教育協力研究センター、男女共同参画室により設置された研究教育支援プラットフォームのもと、国内外の優れた研究者、国際機関・民間企業等でグローバルに活躍する専門家による分野を超えた5年一貫教育を行なうことで、これまでの縦割りの大学院教育では不可能だった〈統合知〉の獲得と6つのコア能力①ジェンダー理解力②実践力③現場力④企画力⑤俯瞰力⑥発信力を習得します。





プログラムの特色

拠点大学、国際機関との 連携による実践教育の重視

国際社会が抱える問題を解決するためには、できるだけ若い時期に異文化を体験し、異分野融合の研究課題に対する俯瞰的な視野と国際性を養うことが必要です。

本プログラムでは、英語による講義・演習、5年間の実践的な英語教育を実施するとともに、アジアを中心とする本学の学術交流協定校・連携大学および国連児童基金（UNICEF）、国連人口基金（UNFPA）、国際協力機構（JICA）をはじめとする国際機関・国際協力機関との連携により、高い専門性と明確なビジョンのもと、アジアにおけるウェルビーイングの実現に向かって行動できる女性リーダーを育成します。

プログラムの支援体制

修了後も継続的にサポート

キャリアパスを実現するためには、複数の段階を踏みながら、各段階で障害や問題を克服し、解決していく必要があります。初期段階では、キャリアへのビジョンの認識不足や実務経験不足、情報不足など、中盤には、専門性とのマッチングやポスト発掘の困難さ、最終段階では、人脈不足や将来への不安などが考えられます。

本プログラムでは、4研究科合同による指導体制に加えて、高い評価と実績を持つ本学のメンター制により、在学中だけではなく、修了後も継続して支援を行なうことで、修了生のキャリアパスを確実にしていきます。

Message

松尾清一
名古屋大学総長

次世代を担う女性リーダーの育成を目指して

名古屋大学は「自由闊達」な学風のもと、社会の様々な分野でリーダーとなる多くの人材を送り出してきました。

「ウェルビーイング」プログラムは、男女共同参画を推進し、次世代のグローバルリーダーを育成する画期的なプログラムであり、世界各国のリーダーをパートナーとして、国際的な教育研究活動を展開しています。ウェルビーイングという大きな目標に向かって切磋琢磨しながら、一人ひとりが勇気と行動力をもって次代の地平を切り拓いてほしいと願っています。

高橋雅英
プログラム責任者
医学系研究科長

アジアとの架け橋になる女性リーダーを育成

アジア各国はまさに様々な文化的背景をもちつつ、急速な発展段階にあります。近い将来、知的好奇心と意欲のある若者が数多く育ち、アジアの発展を支える大きなエネルギーになることは間違いありません。医学系研究科がこれまで取り組んできたアジア各国における医療支援や健康問題の調査を生かし、アジアの抱える諸問題を深く理解し、パートナーシップを築くことのできる女性リーダーの育成に貢献していきたいと思います。

束村博子
プログラム
コーディネーター
副理事
生命農学研究科教授
男女共同参画室長

しなやかに力強く アジアの未来を拓く女性リーダーへ

今日本では、アジアとのパートナーシップを担う強い使命感と明確なビジョンをもつ女性リーダーが求められています。本プログラムでは、異文化交流、異分野融合に立脚した実践的教育を展開することにより、アジアでのウェルビーイングを実現できるグローバルリーダーの育成を目指しています。このプログラムを巣立った修了生が、確かな専門性と俯瞰力をもって企業や国際機関、政策決定機関で活躍し、日本を変え、世界を変える日が来ることを期待しています。

6つのコア能力と統合知を醸成する多彩なカリキュラム

国際機関の第一線で活躍するゲストスピ ーカーによるレクチャー、徹底した英語教育、
海外実地研修など、これまでの縦割り型大学院教育の枠を超え、
異分野融合のカリキュラムを実現。国際的 に活躍するグローバルリーダーに求められる
6つのコア能力と統合知の醸成を目指します。

アカデミズムをベースに、根源的な理解を深める

ジェンダー理解力&俯瞰力

科目 | グローバルリーダー1

ジェンダー理解力やリーダーシップ、多様性に焦点を当てたゲストスピーカーによる講義シリーズ。男女共同参画社会の黎明期から実現に向け奔走した女性リーダーやアジアを中心とする連携大学から講師を招き、国際比較の中での日本の現状やビジョン&ミッション実現に必要な戦略など、アカデミズムをベースとした本質的な理解力や俯瞰力を醸成します。ゲストスピーカーとのパネルディスカッションも特徴のひとつ。多国籍な雰囲気の中、発言する姿勢を身に付けます。

Voice

途上国の農業の現場で最先端の研究を生かせる人材に

掛橋孝洋さん | 生命農学研究科 生命技術科学専攻

学部時代はケニアの塩害を研究しましたが、ケニアだけでは視野が狭くなると思い、アジアのウェルビーイングにフォーカスしたこのプログラムへ入学。留学生たちの論理の組み立て方や自分の中での研究の位置づけなど、日本にいながら多様性を学んでいます。僕の目標は、農学の最先端の研究を現場に生かせる人材になること。ここではJICAやFAOのスタッフの講義もありますから、それらを参考に今後の方向性を絞り込んでいこうと思っています。

全員参加の合宿スタイル。自主的な計画で企画力を育成

企画力&発信力

科目 | 多文化共生特論

多文化共生の基盤となる異文化理解を深めるとともに、アジアに共通する課題を発掘することを目的とした、4研究科5領域合同の合宿を含むプログラム。履修生全員とプログラム協力留学生が、グループワークや全体討論を通じて、「異文化」および「異文化コミュニケーション」について理解を深め、研究領域や文化的背景を超えた統合知の獲得を目指します。

ワークショップ等を全員で計画することで、実社会で求められる企画力を養成。合宿中は英語が原則。国際社会で通用する発信力を育成します。

Voice

豊富なカリキュラムを活用し進路を見極める

佃 瞳さん | 教育発達科学研究科 教育科学専攻

分野を横断した多彩な講義はサプライズの連続。研究科が違うだけで考え方や視点がまるで違う。アンケート作成に際して、文系の学生は質を追究するのに対し、理系の人たちは量的な調査を重視。多文化共生特論の合宿でも、違いを痛感しました。異文化や異分野の学生たちと、一つのテーマで合意することの難しさは、まさに実社会の縮図です。海外研修やインターンシップに参加して、将来の進路を見極めたいと考えています。

具体的にキャリアパスを構想し
自らの研究領域や将来へのビジョンを描く

ジェンダー理解力&企画力

科目 | グローバルリーダー3

グローバルリーダーに必要な資質・能力を醸成する基盤形成を目的としたワークショップシリーズ。ゲストスピーカーは、ユニセフ、UNFPA、FAO、JICA等の国際機関のリーダーで、まさにインターナショナル。ウェルビーイングの課題を討議する一方、国際社会で活躍するためのスキルやキャリアディベロプメント戦略も提示。自らの研究領域や将来へのビジョンを描くステップとします。講師による「キャリアカウンセリング」も特徴のひとつ。積極的なサポートの中、自らのキャリアパスを着想し、実現させるための力を体得します。

Voice

**貧困と女性の高等教育がテーマ
将来はユニセフへ**

SARWAR AIZA（サルワル アイザ）さん | 国際開発研究科 国際開発専攻

母国パキスタンで経験したような女性が陥りやすい問題、例えば貧困や差別などの解消に貢献できる道に進みたいと考え、プログラムに参加しました。研究テーマは「貧困と女性の高等教育」。ゲストスピーカーによる講演は、途上国のジェンダー問題や貧困を先進国の人たちがいかに解決しようとしているのか、また国際機関で働くためのスキルや知識を実際に聞くことができるのでとても役立っています。将来はユニセフ等の国連機関で働きたいと思っています。

Voice

**大好きな研究三昧の日々
「食」をテーマに疾患の要因を追究**

篠壁多恵さん | 医学系研究科 医科学専攻

栄養疫学を専門に慢性疾患の食について研究しているので、「食」をテーマに、分野を横断して研究するこのプログラムは、まさに私が望むもの。日本を含めアジアでも2型糖尿病の増加は大きな問題です。その要因や環境について研究したいですね。日本でも宗教に根ざした食生活を守る留学生や他研究科の学生の視点や考え方は、とても参考になります。英語漬けの毎日は大変ですが、研究の幅はぐっと広がりました。

違いを認め合い、学び合い
自らの内部に学際性を育てる

実践力&現場力

科目 | ウェルビーイング海外実地研修

海外実地研修は、アジアをフィールドに日本では得られない異文化を体験し、その地域が持つ問題やウェルビーイングがなぜ達成されていないのかを見抜く力や素養を鍛える実践の場。ベトナムやインドネシア、フィリピンで母子保健医療や宗教、災害等のテーマに即してリサーチ。専門分野や国籍が違う学生たちがチームを編成し、高度な専門性に立脚しながらも異分野融合の研究課題に対する学際性を自らの内部に育て、グローバルな視点での問題発掘や解決する能力育成を目指します。

学生支援

1 学修奨励金

履修生が経済的に安定した環境で学業に専念できるように、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」により、月額15万円の奨励金を支給します。博士課程後期課程への進学にあたり、継続審査を行いますが、審査に合格した履修生は月額20万円に増額します。継続審査に合格できなかった場合、プログラムへの参加継続は可能ですが、奨励金を支給できなくなることがあります。また、プログラムへの参加状況や学修状況により支給を停止することがあります。奨励金は給付型の奨学金・奨励金との重複受給はできません。既に就業しており給与収入がある場合も奨励金との重複受給はできません。奨励金は「雑所得」として課税対象となります。名古屋大学の授業料・入学金等がこのプログラムへの参加によって自動的に免除されることはありません。各履修生は、通常の手続きにより授業料免除の申請を行うことができます。

なお、上記奨励金は、文部科学省「博士課程教育リーディングプログラム」の採択を受けて実施しているため、「博士課程教育リーディングプログラム」による奨励金制度は、平成31年度までの予定です。

2 その他の支援

海外実地研修や海外インターンシップ、英語プログラムなど、本プログラムが実施する活動に参加するための費用等の支援も必要に応じて行ないます。

応募方法

履修生の選抜は、別紙の募集要項に沿って実施します。関心のある学生は指導教員とよく相談した上で、応募の準備を進めてください。

募集対象

本プログラムは、名古屋大学大学院の4研究科（国際開発研究科、教育発達科学研究科、生命農学研究科、医学系研究科（医学・保健学））が連携して行なうものです。そのため、本プログラムの履修生となるには、いずれかの研究科の修士課程または博士前期課程に在籍することが求められます。また、本プログラムは5年一貫教育であるため、博士後期課程に進学し、博士号取得を希望する者に限ります。

国費留学生など他の奨学金を支給されている学生、有給の社会人学生もプログラムに参加することを目的として履修生となることができます。ただしこの場合、学修奨励金は支給されません。詳細についてはウェルビーイング事務室にお問い合わせください。

募集人数

4研究科合わせて20名程度とします。女子学生を主体としますが、男女共同参画の意識をもつ男子学生の応募も歓迎します。留学生は全体の2割程度とします。

説明会

本プログラムに関する説明会の詳細はHPでお知らせします。

お問い合わせ

名古屋大学　ウェルビーイング事務室
〒464-8601 名古屋市千種区不老町（東山キャンパス　大学院生命農学研究科内）

Email well-being@well-being.leading.nagoya-u.ac.jp
HP http://www.well-being.leading.nagoya-u.ac.jp